

(別紙様式 2)

普及指導員調査研究報告書

所属名：山口農林事務所

担当者名：友廣 大輔

課題名	リンドウの整枝作業の違いによる影響把握
1 調査研究チームの構成	花き班 3名 (齋藤雅美、岡陽一、友廣大輔)
2 課題の目的	当事務所管内では、中山間地域での園芸品目としてリンドウの導入が進み始め J A のリンドウ部会も設立された。また、部会としてマニュアルを作成し、栽培技術の向上に努めてきたが、整枝作業について、作業の徹底が図られていなかった。そこで、整枝作業の違いを確認し、その調査内容を生産者にフィードバックすることで、整枝作業の重要性に対する意識を喚起する。
3 調査研究期間	平成 24 年 4 月～平成 25 年 2 月
4 調査研究の対象地域・場所	山口市阿東篠目 (J A 山口中央阿東リンドウ部会員ほ場) ⇒新規栽培者ほ場
5 調査研究方法の概要	(1) 調査手法 ほ場内で生育が揃っている株を選び、放任区と整枝区を設置し、その後の生育状況の調査を行った。 (2) 調査区の概要 品 種：県オリジナルリンドウ「西京の初夏」 ⇒定植 2 年目 調査区：各区 10 株×2 整 枝：草丈 20 cm 程度の段階で、7 本を残し摘心 (4 月 20 日実施) ⇒マニュアル上は、10 cm の段階で 15 本にする摘心を行うこととしているが、萌芽数が 15 本以内だったため未実施。 (3) 調査内容 調査時期：6 月 15 日…出荷開始直前 調査項目：出荷見込数、茎径、草丈

6 結果の概要、成果（または中間報告）

(1) 調査結果

開花直前（6月15日）に出荷可能な茎の本数と各茎径及び草丈の調査を行った。結果は、以下の通り。

	出荷見込数 (本)	茎径 (mm)	草丈 (cm)
整枝区	4.5	5.5	83.2
放任区	5.1	4.8	90.0

①整枝区に対して、放任区の方が抽苔は多くなるため出荷見込本数が増加するが、茎径では品質の低下がみられる。

⇒部会の出荷規格では、秀品の茎径を5.5mmとしているため。

②一方、草丈では整枝区の方がやや劣るが、出荷規格では秀品を60cmと50cmとしており、80cm程度あれば翌年の株養成のため茎の下部を残しても十分な草丈がある。

(2) 成果

本調査結果を部会に情報提供したところ、次作からは整枝を徹底して品質を高めようという声が多くあがったことから、当初設定した目的は達成された。

7 今後の問題点

- ・今回の調査には定植2年目株を用いたが、定植3年目以降の株では、抽苔数が増加するので、今回の調査結果で見られた傾向がさらに強くなることが推察される。
- ・放任株と整枝株で翌年の萌芽数に違いがみられる可能性があるため、追跡調査が必要。

8 普及活動上の留意点

- ・特になし。

※ 報告書は図表、写真等を含めてA 4判で2 ページ以内にまとめること